

あまみず

雨水利用を進める市民の会
 会長 辰濃 和男
 〒131 東京都墨田区東向島1-8-1
 ☎ 03-3611-0573
 FAX 03-3611-0574

雨のコンサートと落語の夕べ

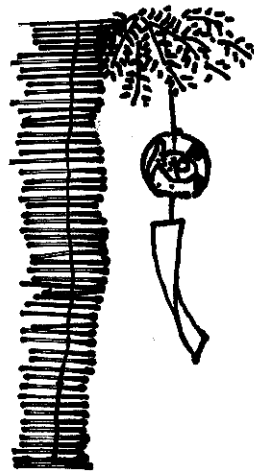
午後6時半～すみだリバーサイドホール
 音楽 人見勇三夫妻・落語 桂 藤兵衛氏

2年前の8月6日、雨水利用東京国際会議の閉会にあたって、私たちはこの日を雨水の日と定め、雨水利用を広めて行く決意をしました。

この記念日に、今年は楽しい集いを企画しました。出演して下さる方々も、現在、念入りに準備をしておられます。

ご家族、友人、知人、またはご近所にお声をかけて、会員の皆さまが、どうか多数ご出席くださるようご案内します。

(詳細は同封のチラシをご覧ください。)



八月六日は雨水の日
 記念の催しにぜひご出席ください

ちんどん屋さんと一緒に 雨水利用の街頭宣伝

〔東京で〕 当日、雨水の日の街頭宣伝をおこないます。若い女性が主催するちんどん屋さんと一緒に、市民の会々員が、風情あるゆかた姿で(?)同封のチラシを配る予定です。

場所は3時から上野駅公園口、5時から浅草駅周辺です。参加を歓迎します。ご連絡ください。

〔各地で〕 現在、多摩市、浜松市、松山市、金沢市、水俣市、松戸市、名古屋市などで、各地の会員の協力でチラシが配られる予定です。

その外の地域でやってくださる方は、ファックスで事務局までご連絡ください。8月1日までに送ります。なお、東京以外のチラシには「コンサートと落語の夕べ」の案内は省いてあります。



'96 雨水フェア開催

7.14

第2回

梅雨開けにふさわしい炎天下、第2回雨水フェアは開催されました。この暑さの中、220人余と来年に課題を残しましたが、内容的には熱気を感じるほど充実した一日でした。

今年のテーマは、『広げよう雨水利用』です。冒頭のあいさつで、辰濃和男会長は、雨水利用を広げる運動の原則として、3つの項目をあげました。①雨水の自然な循環をよみがえらせること、②都市に無数のダムを作り水源の自立を図ること、③雨と共生する知恵を伝承し、雨の文化を育むこと。また、近い将来の目標として、各国の代表による雨水サミットも、仲間内で話し合われているとのことでした。

午後4時から上映された、映画『続・あらかわ』においても、荒川を少しでもきれいにしようという試みが紹介されていました。私たちの雨水利用の運動と共感できる行動です。「雨水利用は墨田区(市民の会)から」を合い言葉に、次のステップである、雨水の日(8月6日(火))のイベントへと、運動の輪をつなげられたいと思います。点から線へ、そして面へ。雨水利用を広げていきましょう。

基調講演 1
水害と雨乞い
—歴史の散歩道—
 【講師】宝井 琴梅氏 講談師

講談の中にも、水や雨に関するものが多そうである。雨がさまざまな形で人々の生活に自然に溶け込んでいたことがわかります。

水害にまつわる話はたくさんあり、水が押し寄せてきた時に大切なものを守る水塚や、船を用意しておくなど、生活のチ工に関するものも多いのだそうです。

大水が出ると一番困るのが、これまた水。きれいな水が手に入らなくなる。白髭神社の「おたすけ井戸」にまつわる話もおもしろい。

雨乞いについては、豊験あらたかな、みめぐり神社にまつわる話がある。雨乞いをしている所へ通りかかった宝井基角という俳諧師が「夕立や、田をみめぐりの、神ならば」と詠んで神社に捧げたところ、翌日、雨が降り、豊年満作になった。なぜならば、句のなかの「ゆ、た、か」と読み込んだから、というお話。

歌舞伎の忠臣蔵にも雨にまつわる話がある。

パネルディスカッション

午前の基調講演に引き続き、午後は、大堅 幸一、田中清子、佐藤清、深野紀幸の4氏によるパネルディスカッションが行われました。コーディネーターは山本耕平氏です。議論を交わすには短い時間でしたが、とても有意義な雨水利用の提案と問題提起がありました。

尚、大堅さんは、雨水利用コンテスト実践部門最優秀賞の授賞者でもありますので、最後のページのコンテスト入賞者の覧にコメントをまとめました。

基調講演 2
「雨と川の共生」
 【講師】大平 一典氏
 建設省荒川下流工事事務所長

河川行政は、水の文化というふうな心の部分、精神の部分が理解できなければ、うまくやっていけません。

日本文化は、水、川との関わりが大きいのです。米(稲作)を中心とした社会構造から河川を主軸にした土地利用管理が長く続き、川は地域全体の共有物という意識が芽生えました。

また、河川を改修して水田を開発したり、河川水を農業用水にしたり、船運を利用したりと、生活の隅々にまで川とのつながりが入り込みました。

一方、洪水に出会うことから、水屋など生活の知恵を発達させてきました。このようにさまざまな水とのつながりに培われた日本の文化は、川に、日常の汚れを流す場、心の迷いや穢れ、罪を流して、元の清浄をよみがえらせる場というような精神の循環を見るまでになっていったのです。

水は人の心や社会を映す鏡です。水の汚れの川は、社会(精神)の汚れを現しているようにです。

天水尊(雨水利用)は、単なる節水にとどまらず、他人や自然への思いやりの心という、日本の水文化に通じるものがあります。

【パネリスト】

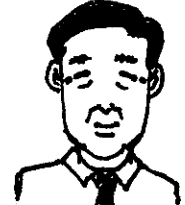
佐藤 清氏 (株式会社テクノプラン代表取締役)



エコロジカルな家造りの建築設計を目指しており、最近では、水(雨水)のエネルギー利用(冷房など)に着目している。

「雨水利用も溜めることから、いかに利用するかへと視点が変わってきている。大規模利用から、小規模利用へと分散化させることも課題のひとつである。雨水利用の普及には水道料金を上げることも考えてみてはどうか。雨水利用に対してもっと温かく、援助していくような上下水道料金制度になれば、いろいろな雨水利用を実践する団体や仕組みが出来てくるのではないだろうか」

深野 紀幸氏 (墨田区環境対策課長)



「墨田区では昨年10月に、雨水利用助成制度を開始したが、制度の利用者は以外に多くない。水の供給システムは、一度できあがってしまうと変更が難しく、雨水利用も今のところ、ダムの補完的な手段であろう。既存のシステムは、環境破壊にもかかわらず負のコストを払っているわけではなく、今後はそういった議論も含めて、雨水利用の世論をいかに盛り上げるかが課題となる。天水尊は自分で利用してみて、なかなか楽しい。口コミで広がっていくのが現実的に手取り早いのかと思います」

田中 清子氏 (雨水利用を進める市民の会世話人)



94年の東京国際会議から活動に参加し、ハワイ、中国、沖縄、ドイツの海外視察などにも行きました。自宅の雨水利用を考えるうちに、路地尊に出合ったという経歴の方です。

「雨水利用を既設の家で、低コストな方法でできないか。築25年のわが家のトイレも、やっと雨水タンクのパイプを取り付ける工事を始めました。運動を広げるには、まずは市民が身銭を切るつもりで実践した中で、自治体に働きかけていくことが大事ではないかと思います」

【コーディネーター】 **山本 耕平氏**

(株式会社ダイナックス都市環境研究所代表取締役)



「雨水利用がここまできたのも、人が集まって情報交換していく場があったからで、今回の墨田区のフェアだけでなく、全国の地域でもノウハウなり経験なりを交換し合うことが非常に重要ではないかと思います。

国の制度的なサポートに頼るのではなく、市民が関わって、環境学習やピオトープにまで話が広がってそれを実践していくことに、おもしろさがあるのではないかと。料金等の制度的な課題についても、自治体の中で検討していただきたいと思っています」





実践部門最優秀賞
大堅 幸一氏

雨水利用コンテスト入賞者の紹介

昨年の実践部門優秀賞に引き続いての受賞です。大堅さんは、定年退職後、第二の人生に農業を選んで、秩父市ほか1ヵ所に土地を得ました。

最優秀賞を受けた施設は、堆肥づくりに雨水利用をおこなっているもので、堆肥と液肥を同時に得る、無蓋サイロといえるものです。

大堅さんは、当日午後のパネルディスカッションにもパネリストとして参加され、「秩父は都市の水源地であるにもかかわらず、水道料金が近隣の市よりも高い。何かを犠牲にしなければならないダムよりも、都市部においても、雨水利用が今こそ必要ではないか」と力説しておられました。

川柳部門でも水不足のモンゴルと日本を対比させた句が佳作に入りました。今後も、一層のご活躍を期待します。

他のコンテスト入賞者は、次のとおりです。

<<実践部門>>

- ・優秀賞：福田 真理夫
- ・佳作：石田 信彦，福岡 美興

<<アイデア部門>>

- ・優秀賞：先灘 健司
- ・佳作：伊庭 日出樹，八木沢 義雄

<<川柳部門>>

- ・最優秀賞：吉岡 裕
なみなみと 路地尊雨と情を貯め
- ・優秀賞：菊田 祐子
おおねぼう 整髪ジェルより雨のジェル
- ・優秀賞：糸賀 幸子
雨を受け 畑乳吸う子のように
- ・佳作：大堅 幸一
モンゴルの 旅から帰って雨水溜め
- ・佳作：小川 かほる
水洗に 雨水使い運開け

(敬称略)

★雨水利用相談コーナー

相談コーナーには10件の相談がありました。貯め方について：1件、使い方について：3件その他：6件、内「不用になった浄化槽の転用」についての相談が3件でした。

☆書籍販売

アフリカ、ハワイ、中国の名調査報告書がよく売れました。「やってみよう雨水利用」「環境シグナル」など合計で70冊の売上です。

来年度、1997年4月17日から28日まで、イランのテヘランを中心に雨水利用の調査をし、第8回国際雨水資源化学会に参加します。

ピザの手配などがありますので、参加を希望される方は7月中に事務局までご連絡ください。



雨水利用の自治体ネットワーク発足

平成8年7月15日

雨水フェアの翌日、墨田区役所において、雨水利用自治体担当者連絡会の設立総会が開かれました。開催日現在、63の自治体から連絡会に加入する旨の連絡があり、会議にはオブザーバーも含めて50の自治体、77人が出席しました。

近年の全国規模の渇水や阪神大震災の経験によって明らかになった災害時の水の重要性から、雨水利用が注目され、自治体の中でも強い関心を示したり実際に雨水利用に取り組むところも増えてきました。

このような中で、自治体同士のネットワークをつくり、雨水利用を進めていこうと、墨田区、葛飾区、多摩市、越谷市、鎌倉市、神戸市、福岡県、沖縄県が発起人となり、全国の自治体に雨水利用自治体担当者連絡会の設立を呼びかけたものです。

午前中は規約の承認と役員を選出がされたあと、いくつかの自治体から雨水利用の現状と施設の紹介がありました。午後は、墨田区の村瀬誠主査によるスライドを使っの「世界の雨水利用」の講演が行われました。